

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 河村 香

1. 日 時 令和6年9月26日(木) 第5時限 13:45～14:30

2. 場 所 第1年3組教室

3. 学 年 ・ 組 第1学年3組(29名)

4. 単 元 名 「よんでたしかめよう」

教材文:「うみのかくれんぼ」(光村図書)

5. 単 元 目 標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 【(1)カ】 - 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 【(2)ア】	- 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【C 読むこと(1)ア】 - 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【C 読むこと(1)ウ】 - 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 【C 読むこと(1)オ】	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

「かくれんぼ名人」を探して、伝え合う。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 文の中における主語と述語との関係に気付いている。 - 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

4月当初から子どもたちは、どんなことにも一生懸命で、どんな話題提示や問いかけについても「知ってる！知ってる！」と意欲的に反応する姿が見られた。しかしながら、実は表面的で深く知らないことも多く、わかったつもりになっているのが現状であった。また、知っているがゆえに、さらに知ろうとはせず、文を詳しく読まないという姿も見られた。そのため、「わからない」ことに気づき、どうすればその「わからない」ことを解決できるのか、どのようなことに取り組めばよいのかを考えられる子どもたちになって欲しいと考えた。

まず、文学的な文章「はなのみち」では、場面ごとにワークシートに視写を行い、挿絵に色を塗って完成させた。そうすることによって、文章表現や挿絵の細かい点にも着目し、これまでは気付かなかった分ち書き・かぎかっこ・点や丸・主語や述語などの文の書き方、袋の中身は何か・季節の移り変わりなどの話の内容に疑問を持ち、その疑問を解決するために文章を詳しく読むことができ、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができた。

そして、説明的な文章「つぼみ」では、単元の導入で、何も見せずに「つぼみ」の絵を各自描かせた。初めは「つぼみを知っているか」という問いかけに子どもたちは「知ってる！知ってる！」と反応し、どんなつぼみを知っているかたくさん発表できたが、いざ「つぼみ」を描いていくと、「あれ？どんなやつだったっけ？」と鉛筆が止まり始めた。このような導入をすることによって、子どもたちは自ずと、つぼみの形・色・中身・動きはどうなっているのか、それらは花の種類によって異なるのか同じなのか、どうやってつぼみができるのか、つぼみはこれからどうなっていくのか（開いていくのか）という疑問が生まれ、その疑問を解決するために、つぼみの観察・世話・写真（動画）で撮影をする、博士に聞く、調べる（辞書・本・図鑑・パソコン）などの方法がたくさん出てきた。そして、その疑問となった答えを一生懸命、教科書の本文から探し出し、意欲的に写真を見たり、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりすることもできた。さらに、読み手として「もっと他のつぼみについて本や図鑑で調べたい！」、そして、「教科書に出てくる三つの事例のうち、はすとききょうのつぼみの形はよく似ているから一つは変えてはどうか？」などの書き手になろうとする姿も見られるようになってきた。

このように、子どもたちの「わからない」（疑問）は、「知りたい！」「調べたい！」などの疑問を解決しようとする姿に子どもたちを変容させていくことが分かった。従って、「うみのかくれんぼ」においても、子どもたちの「あれ？どういうこと？」と自ずと知りたくなるようなきっかけづくりを大切にしたい。そうすることによって、子どもたちの「知っている」中にも実は「わからない」ことがあることに気付かせ、「わからない」から「知りたい」「調べたい」などの「～したい」という新たな学習への意欲に繋げていきたい。

(2) 教材観

本教材は、「つぼみ」に続く二つ目の説明的な文章である。「つぼみ」では、事例一つずつに問いと答えがあり、一問一答式の列挙型だったが、本教材は、「なにが、どのようにかくれているのでしょうか。」という文章全体にかかる大きな問いがあり、それに対する答えとして、3種類の生き物が例示された「列挙型」の構成となっている。生き物はそれぞれ3文の同じ文型で説明されていて、いずれも1文目で「生き物の名前と場所」を、2文目で「体の特徴」を、3文目で「隠れ方」を示している。3枚の写真もこれらの順序に合わせて効果的に示されていて、3枚並べることで動画のように順を追って見ることができる。このように問いに対する答えが、写真と合わせて、どの例でも同じように書かれているため、子どもたちがその違いを比較的容易に捉えることができる文章であるといえる。子どもたちは、本文の読み取りを通して、事柄の順序に気をつけて読むことを学べる構成と

なっている。

また、本教材は列挙型の説明的な文章であり、それぞれの事例を比較しながら読み進めることでそれぞれの事例のもつ特徴やよさを明らかにしていくことに適している教材である。そこで、「一番のかくれんぼ名人はどれか」という単元のゴールを設定することにより、子どもたち自らが事例を比較し、それぞれの事例のもつ特徴やよさを明らかにしていきたい。

(3)指導観

これまで子どもたちは、海の生き物を本や図鑑、水族館などで親しんできたと思われるので、本教材に興味・関心を持って取り組むことができるのではないかと考えられる。そのため、自分たちが知っている生き物について活発な意見も出てきやすいだろう。しかしながら、実際海の中で生き物がどのように生活しているのか、知らない（わからない）ことも多いだろう。子どもたちと一緒に、「かくれんぼ」という身近な遊びと繋げて考えていくことで楽しみながら対話し、その中で「もっと知りたい」という意識が子どもたちの中から自ずと芽生えてくるような授業をめざしたい。

そのために、単元の導入では、「かくれんぼ」を体験していない子どもにも、自分の体験などと結び付けて考えられるよう「かくれんぼ」を疑似体験できるようにしかけをしたい。そうすることによって、全員が自ずと「なにが」「どこに」「どうやって」隠れているのかを探したく（知りたく）なるようにしたい。教員が実際に「かくれんぼ」をしている写真を提示することによって、「一先生（だれ）が一（どこ）に一（どのように）隠れているのか」と探すことに夢中になり、楽しくかくれんぼの疑似体験をすることができる。そして、「うみのかくれんぼ」の最初の写真（砂浜）を見せることによって、「なにがどこにどうやって隠れているのか？」という疑問を持ち、さらに海のかくれんぼに引き込むことができる。今度は、隠れている海の生き物は何か、どこにどのように隠れているのかを胸を膨らませながら探して行って欲しい。

さらに、教員が実際に「かくれんぼ」をしている写真から、「一先生かくれるん一番上手！」と写真を比較することも予想される。これを利用して、3種類の海の生き物でも「かくれんぼ名人を探して、伝え合おう」という単元のゴールを設定し、教材の写真だけではなく文を比較する学習を行いたい。そして、人と海の生き物でも比較することで、「かくれんぼ」は人にとっては遊びであるが、海の生き物にとっては生き残るための手段であることをこの教材を通して深く考えさせたい。

このように、本教材を通して、自分の体験などと結び付けながら生き物に対する興味・関心をさらに高め、文章を読み、内容を捉える力を付けるとともに、説明的な文章を読む楽しさを味わえるようにしたい。

9. 単元の指導と評価の計画（全9時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1	・題名・写真から「かくれんぼ」を想起し、交流する。 ・写真から「なにが」「どこに」「どのように」隠れているのか予想する。 【本時】		○	○	・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【C 読むこと(1)オ】(発言・記述)

2	2	・ 範読を聞き、出てきた生き物や説明されていたことについて確かめる。 ・ 「問い」と「答え」を確認し、文章全体の構成を捉える。	○	○	○	・ 文の中における主語と述語との関係に気付いている。 【知(1)力】(発言・観察) ・ 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【思C(1)ア】(発言・観察) ・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知(2)ア】(発言・記述) ・ 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【思C(1)ウ】(発言・記述) ・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知(2)ア】(発言・記述) ・ 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【思C(1)ア】(発言・記述) ・ 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【C 読むこと(1)オ】(発言・記述)
	3	・ 3種類の事例の内容を三つの視点で整理する。 「隠れている場所」 「体の特徴」 「隠れ方」	○	○	○	
	4		○	○	○	
	5		○	○	○	
	6	・ 3種類の事例を比較し、共通点や相違点を見つける。 - 砂の中か上か - 道具を使うか - 隠れる速さ	○	○	○	
	7	・ 自分が考える「かくれんぼ名人」を決め、その理由を書き、伝え合う。		◎	○	
3	8	・ 本や図鑑などから、他の「かくれんぼ名人」を探して、カードに書く。	◎	◎	◎	・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知(2)ア】(発言・記述) ・ 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【思C(1)ウ】(発言・記述) ・ 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 【C 読むこと(1)オ】(発言・観察)
	9	・ 調べたことを伝え合い、学習を振り返る。		○	○	

10. 本時の展開(1/9時間目)

(1) 本時の目標

- ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。

【C 読むこと(1)才】(発言・記述)

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 題名から、「かくれんぼ」について想起する。	・児童の先行経験から、「知っている(わかる)」を引き出させる。	
2. 事前に用意された写真から、「かくれんぼ」の疑似体験をする。	・「かくれんぼ」を知らない児童からも、「わかる」を引き出させる。 ・「だれが」「どこに」「どのように」隠れているのか交流させる。	
3. 砂浜の写真から、何がどこにどのように隠れているのか探す。	・児童の「わからない」から、「知りたい」を引き出させる。 ・海の中に目を向けさせる。	
「なにが」「どこに」「どのように」かくれているのか、よそうしよう。		
4. 海の中に、「なにが」「どこに」「どのように」隠れているのか、班で予想し、交流する。 (1) 班で予想する。 (2) 全体で交流する。	・3種類の事例の各3枚目の写真(隠れ方)だけを見せて、予想させる。 ・班に1枚のワークシートを配り、班員で協力し、完成させる。	・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【C 読むこと(1)才】 (発言・記述)
5. 本時をふりかえり、学習課題を共有し、単元の見通しをもつ。	・海の中に、「なにが」「どこに」「どのように」隠れているのか、予想したことを確認させる。	

(4) 本時の判断基準

本時における具体的な児童の状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
3種類の事例の各3枚目(隠れ方)の写真を手がかりに、「なにが」「どこに」「どのように」かかっているのかを探し、それを友だちに伝えている。	ワークシートの「なにが」は生き物、「どこに」は場所、「どのように」は隠れ方が入ることを、写真を示しながら個々に説明する。

(5) 板書計画

◎ふりかえり

- ・いろいろなかくれかたがある。
- ・かくれかたがそれぞれじゃなかった。
- ・みつからないようにくふうしている。

かくれんぼめいじんをさがしていこう！

写真
③

メモ

写真
三枚目の
もくずしよい

メモ

どのように
どこに
なにが

写真
②

メモ

写真
三枚目の
たこ

メモ

どのように
どこに
なにが

写真
①

メモ

写真
三枚目の
はまぐり

メモ

どのように
どこに
なにが

うみのかくれんぼ
おににみつからないようにかくれるあそび

わからない

砂浜の
写真

なにが
どこに
どのように

かくれている
のか？